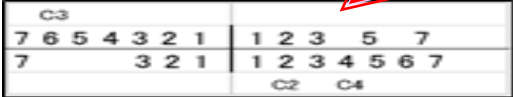


歯科診療の補助など直接的指導ではない症例  
に関する書き方の例

(様式5)

自分が特に深く関わった内容について  
この欄に簡潔に記載すること  
様式4 症例一覧の「臨床経験内容」に相  
当する。

症例にかかわる内容を抽出して簡潔に記載すること。  
次の診療・指導計画の立案に必要な情報について記載  
(収集した情報の記載)。  
全身状態、発達レベル、生活環境、などアセスメント  
に必要な情報が記載されていると良い。

症例番号	IDまたは カルテ番号	性別 M・F	診断名
初診年月日 年 月 日 ( 歳)	臨床経験内容 歯科診療の補助	歯式	
<p>初診時の状況：</p> <p>う蝕を学校検診で指摘され近医を受診したが怖がって診査ができず紹介を受けて来院。 担当医より治療への導入練習も兼ねた診療補助の依頼を受けた。 姿勢の異常や身体活動に困難さは認めない。発達レベルは、療育手帳○○で遠城寺式発達検査では、○○歳 とのこと。在宅であり、通所施設を利用。 問診中に多動は認めず、発語あり。言葉数は○○○。 理解能力は○○○。音の出るものは苦手。生活は規則正しいが、帰宅後にジュース、お菓子を○○○。普段の ブラッシングには嫌がる</p>			
<p>診療・指導計画：歯科衛生士のかかわる内容を中心に記載する 発達レベルは比較的高く、指示にも従えたため、 恐怖心が問題であると判断。 う蝕もC1程度であったため、治療に移行する前の導入での 練習で恐怖心を除くことを目的とした。・・・・・・ そのため、最終目標を○○とし、診察ごとに スモールステップを決めて実行していくこととした。 歯科医師による診察の前に歯科衛生士がT.S.D.法および 写真カードを用いて適応行動を生み出すように促し、治療に移行した際は患者がリラックスして受診で きるように・・・・・・</p>			
<p>診療・指導経過と結果：</p> <p>初回：行動は落ち着きがなくユニットに座ることができなかった。器具を知ること为目标とし、ユニッ ト脇でT.S.D法を用いて器具の説明と手指に触れさせる。2回目：ユニットに寝ることを目標とし、○○○○ を行った。3回目：ユニットに寝ることができるようになったため、・・・・・・ 10回の練習を経て、現在は音も怖がることがなくユニット上で歯科衛生士によるPMTCが行なえるよ うになっており、目標は達成できている。 食生活の改善はまだ出来ていない。・・・・・・ 現在は仕上げ磨きが主であるが、拒否行動も多い。今後の課題として・・・・・・</p>			
<p>歯科衛生士指導医名 または指導歯科衛生士名（自書署名）</p>		<p>◆歯科衛生士の指導内容を中心に経時的に記載する。 ◆自分が携わった初回から現在、そして今後の課題に至るまでの過 程を大切な事象を中心に抽出して簡潔に記載する。 ◆自分自身が立案した診療補助での関わり方や目標、指導計画を自 分が行った工夫も含めて、どのように遂行し、そしてその目標や 計画がどの程度達成できたのかについて記載する。 ◆患者側と医療従事者側の両方を適切に再評価し、それぞれにおけ る今後の課題についても記載されていると、なお良い。 ◆特に自分が衛生士としてどのように関わり、それによる患者や介 護者の変化、もしくは医療従事者の変化、そしてその変化に対す る自分の対応について盛り込むと良い。</p>	

歯式など口腔内の情報を記載

診療補助の場合：情報収集、問題点の抽出、  
患者評価を行った上で、行動調整法などを  
踏まえて歯科衛生士としての関わり方と  
目標を決め、それらの内容をこの欄に記載  
する。この目標の対象には、患者本人、介  
護者だけでなく医療従事者なども含めて  
も良い。

\* 症例番号および臨床経験内容は臨床経験症例一覧に記載された番号をご記載下さい。  
\* 経験症例詳細報告は臨床経験症例一覧（様式4）より5例選びご記載下さい。用紙はコピーしてご  
使用ください。